

行政視察報告書

令和 6 年 1 月

議会運営委員会

- 1 視察実施日・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 2 参加者・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 3 視察先及び調査事項・・・・・・・・・・P1
- 4 視察先の概要・・・・・・・・・・P1～P2
- 5 調査事項の概要・・・・・・・・・・P3～P4
- 6 委員会としての視察のまとめ・・・・・・・・P5
- 7 各委員報告書・・・・・・・・・・P6～P13

1 視察実施日（オンラインにより実施）

令和6年1月25日（木）

2 参加者

委員長 小川忠市
副委員長 藤尾 潔
委員 小紫泰良、岸本眞知子、大畑一千代、別府みどり
議長 高瀬俊介
副議長 長谷川幹雄
職員 壺井初美、松本裕介

3 視察先及び調査事項

視察先 石川県能美市
調査事項 議会改革について
（議会DXの取組、予算決算常任委員会の運営（審査））

4 視察先の概要

平成17年2月1日、能美郡根上町、寺井町、辰口町が新設合併。

石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、県都金沢市へは北東約20kmの距離にあり、南には日本海側の拠点「小松空港」がある小松市に隣接している。市の北側には標高2,702mの霊峰白山から流れ出る手取川と梯川に挟まれた扇状地、西側には日本海を望む白砂青松の美しい海岸線、南側には白山山系に連なる能美丘陵が美しい稜線を描いており、海・山・川・平地の自然に恵まれた非常に豊かな地勢である。

総面積は、84.14km²であり、地目別面積は「宅地」が約15%、「農地」が約22%、「山林」が約42%となっており、山林については辰口地区に広く分布し、人工林ではスギやヒノキ、アカマツ、クロマツなどの針葉樹が、天然林では広葉樹が多くみられる。

能美市には「能見古墳群」等の史跡、華やかな色絵が魅力的で全国的にも有名な伝統工芸「九谷焼」、開湯1400年の歴史を誇る「辰口温泉」があり、また、我が国有数の先端科学技術大学院大学「JAIST」を中核機関とした「いしかわサイエンスパーク」では、産学官の連携を推進し、新たな知の創造と開発力を生み出すことを目指して日々、人材育成や研究が行われている。

人口：49,693人

世帯数：20,033世帯

（令和6年1月1日現在）

石川縣市町村地図



【能美市議会について】

(1) 議員定数・任期

- ・ 条例定数 16人（現員数15人（令和6年1月1日現在））
- ・ 任期 令和3年11月1日～令和7年10月31日
- ・ 議員定数の変遷

	議員定数	備考
平成17年2月1日～	47人	在任特例適用期間（9か月）
平成17年11月1日～	22人	
平成21年11月1日～	18人	
令和3年11月1日～	16人	

(2) 年齢別議員数

40歳未満	40歳～ 50歳未満	50歳～ 60歳未満	60歳～ 70歳未満	70歳以上	計
0人	1人	1人	9人	4人	15人

（平均年齢 66.1 歳、最年長者 85 歳、最年少者 43 歳）

(3) 委員会

・ 常任委員会

名称	定数	所管事項
総務産業 常任委員会	8人	総務部、市長室、企画振興部、土木部、産業交流部、会計課、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、固定資産評価審査委員会、農業委員会及び消防本部の所管に属する事項並びに他の常任委員会の所管に属さない事項
教育福祉 常任委員会	8人	市民生活部、健康福祉部、市立病院及び教育委員会の所管に関する事項
予算決算 常任委員会	15人 (議長を除く)	予算及び決算に関する事項

・ 特別委員会

名称	定数	所管事項
広報広聴特別委員会	7人	議会広報の発行及び広報広聴に関すること
基地対策特別委員会	5人	小松基地及び小松空港に関係する諸問題の調査及び対策に関すること
議会活性化特別委員会	5人	議会改革に関すること

・ 議会運営委員会（定数 6人）

5 調査事項の概要

(1) 議会DXの取組について

能美市議会では、会議資料のペーパーレス化や事務作業の軽減化などを図るため、令和3年5月からタブレット端末を導入している。

タブレットの導入により、紙資料の削減による経費削減を実現したほか、オンライン行政視察や議会広報紙の校正作業など様々な場面で活用している。

【タブレット端末の導入効果・活用例】

■年間約23.3万枚の紙資料の削減

全ての会議において議員・執行部ともにタブレット端末を使用し、完全ペーパーレス化を実施

■年間約173万円の経費削減効果

ペーパーレス化に伴い、紙・印刷コストが不要となったほか、資料の印刷や製本、差し替え作業などの事務的負担の軽減、業務の効率化にも寄与

■資料の視認性向上

タブレット端末を活用した会議では画面共有を行うことで資料のどの部分を説明しているかが一目で把握可能。また、写真や図解等もカラーで鮮明に表示できるほか、文字の拡大などもできることから、資料の視認性が向上

■オンライン行政視察・研修への対応

議員1人1台のタブレット端末を活用して、オンライン行政視察・研修も実施。オンライン対応により、遠方の自治体や講師とも簡単に意見交換・情報共有が可能になったほか、行政視察・研修の経費も削減

■議会広報紙の校正作業を効率化

定例会の内容や議会活動などを伝える『能美市議会だより』を年4回発行しており、校正作業にもタブレット端末を活用することで、従来の1/3程度まで校正時間が短縮

(2) 予算決算常任委員会の運営（審査）について

平成27年9月、充実した審議に取り組むため議長を除く全議員を構成員として全体会と分科会方式による予算決算常任委員会を設置。

委員は、当該委員が所属する常任委員会（総務産業常任委員会・教育福祉常任委員会）に相当する分科会（総務産業分科会・教育福祉分科会）にそれぞれ所属し、質疑については時間及び回数制限はない。次に、全体会では所属する常任委員会（総務産業常任委員会・教育福祉常任委員会）の所管以外の議案内容について質疑が可能だが、時間及び回数には制限が設けられている。

審議上のすみ分けについては次のとおりである。

予算決算常任委員会

審議上のすみ分け

会議	全体会	分科会
審議	<u>所管以外</u> の議案内容について審議 (通例として)	<u>所管</u> の議案内容について審議
メリット	所管以外の議案内容について 質疑できる	質疑に関して 時間や回数の制限はない
デメリット	①会派ごとに時間制限がある ②再質疑は1回まで	所管の議案内容しか 質疑できない
開催時間	①質疑：60分程度(最大95分) ②分科会長報告・分科会長報告への 質疑・討論・採決：30分程度	100～150分程度 (総務産業・教育福祉それぞれ)

6 委員会としての視察のまとめ

(1) 議会DXの取組について

今回の視察でタブレット端末導入の効果を検証することができた。

議会DXの推進、タブレットの導入については全委員の意見が一致したところである。

加東市議会においても令和7年度よりタブレット端末の導入に向け環境を整備していく必要があるため、令和6年度に詳細を決定し、全員協議会で導入プラン等を報告し、全議員のスムーズな運用開始を目指す。

(2) 予算決算常任委員会の運営（審査）について

能美市とは議案の審議方法（委員会付託）について相違があり、会議規則の改正も含め検討を要することを確認した。

予算決算常任委員会を設置し、予算関連議案を委員会へ付託することについては委員の賛否が分かれた。主な意見は次のとおりである。

【賛成意見】

- ・ 附帯決議、自由討議などの運用が難しい
- ・ 大規模な補正予算を本会議の審議のみでは審議が不十分になるのでは
- ・ 議員研修において一般的には委員会付託が基本であるとの教示を受けた

【反対意見】

- ・ 本会議において十分な審議、質疑を行えば問題ない
- ・ 全議案を委員会付託とすることで、本会議が形骸化するのではないか
- ・ 形式にとらわれず、議員数など加東市に相応しい審議方法であるべき

現時点で加東市議会に予算決算常任委員会の早急な設置の必要性は認められないが、補正予算案の審査においては慎重な審査の必要もあることが予想されることから予算決算常任委員会の設置については継続して調査研究していくこととする。

なお、今後は委員会付託省略議案については必要に応じ、質疑の後に休憩を求めるなどして審議を深めていくこととした。

7 各委員報告書

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員長 小川 忠 市

【議会DXの取組について】

能美市議会では、令和2年6月に「議会の活性化に関する検討会」を設置して、タブレットの導入メリット・デメリットや効果を検証し、同年12月定例会でタブレット導入の補正予算を可決。令和3年5月にはタブレットの運用を開始し、当初は紙資料と併用していたが半年後の11月からは完全ペーパーレスで会議を行うなど、導入の検討から運用まで一年も要していないそのスピード感に驚いた。

そしてその効果として

- 年間で約23.3万枚の紙資料の削減。
- 年間で約173万円の経費削減。
- 会議資料の視認性の向上。
- オンラインでの行政視察における経費の削減。
- 研修における意見交換や情報共有の効果。
- 議会広報紙校正作業の効率化。（従来の1/3程度の校正時間短縮）

などがあり、能美市議会からは「導入することでメリットしかない。」と言われた。加東市議会においても積極的に取組むべきと感じた。また、導入に消極的な意見をお持ちの議員への対応も「やっしまえば出来る！年配の議員でもサクサク出来ている。」とご教授いただいた。

（参考：議員平均年齢 能美市議会＝66.1歳、加東市議会＝62.4歳）

現在、加東市議会においても「議会の活性化と議会運営の効率化」に向け、議会DXを推進しているが、今回の視察を機に、推進リーダーを中心にスピード感をもって躊躇することなくさらに進めたいと強く感じた。

タブレット導入の目標時期を令和7年4月とし、それまでに次年度予算要求のため10月頃までに議会内の調整、理事者との意見交換等の調整を実施していくように委員会で協議を進めたい。

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

能美市議会は、委員会での付託審査（委員会審査重視主義）を行っており、本会議中心で審査している加東市議会の運営について議論がかみ合わなかったように感じた。（加東市議会の質問が理解していただけなかったのでは？）

今回の視察で、能美市議会からは「運用方法は特別委員会から踏襲しているためメリット・デメリットはない。」「定例会ごとに予算の審査を行うため、常任委員会化の方が適している。」とのご意見をいただいた。

現在、加東市議会は「町村議会の運営に関する基準」に基づき運営している。そのため、ほとんどの議案（補正予算、条例改正等）が即決となっている。特に補正予算の審議においては、修正の必要がある場合や、より理解しやすい資料が必要な場合があっても即決のため審議時間の関係上なかなか難しい面があるように感じている。

また、特別委員会（予算や決算）の設置は議会の議決が必要であり、毎回のその手続きも煩わしさがあると感じている。

全国市議会議長会著「地方議会議員ハンドブック」によれば、「議会に提出された事件は、通常、本会議から常任委員会（あるいは特別委員会や議会運営委員会）に付託されるが、省略することもできる。」とある。

従って、市議会の運営では「委員会付託」が通常であり「委員会付託省略」は希である。加東市議会は真逆の運営をしていると感じた。

近隣の市議会も含めほとんど市議会が予算決算常任委員会を設置していることからして、加東市議会も予算決算常任委員の設置に向け積極的に取り組む必要性を感じた。

ただ、予算の執行が急ぐ場合は、能美市議会のように理事者と調整し、即決を要する議案と委員会に付託する議案とに分けて上程することで議会が対応すれば事務執行には影響はないものとする。

また、議案審議も本会議中心ではなく、詳細な審査の必要性から全ての議案を委員会に付託して委員会中心の審査をする方法に変えていくべきと感じた。

議会運営委員会の活動計画の「議会改革の推進」の②に掲げており、現議会運営委員会の任期中に会議規則等の改正を行い、時期的には、令和6年12月定例会から運用できないかを提案し、委員会で協議を進めたい。

【その他】

能登半島地震の被災地支援に微力でも寄与できないかと思い能美市へ対面での視察に行きたかったが、大寒波の影響で実施できなくて残念だった。急なオンラインでの視察要請にも快く対応していただいた能美市議会田中議長様をはじめとする議員さん並びに事務局職員さんに感謝申し上げたい。

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会副委員長 藤 尾 潔

【議会DXの取組について】

能美市議会は先進的に取り組まれているが、先進地の取り組みといっても目新しい事項があるわけではない(ある意味標準化仕様となっているともいえる)と思うので、加東市議会で行き止まりか否かスケジュール感も含めて決める時期に来ていると思う。

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

私は本会議の審査には、時間的な面・形式的な面も含めて制限があるように感じているので委員会付託しての審査を望みます。

分科会方式は採用せず、現予算委員会の方式をとればよい。

緊急の予算は当日審議も行っているとの説明もあったので対応できると思う。

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員 小 紫 泰 良

【議会DXの取組について】

- ・議会DXについては、「大変なのは最初だけ。やってしまえば、大丈夫である。」という言葉が印象に残っている。能美市議会のお話を聞いていると出来るだけ早くに議会DXに取り組むべきだと思った。
- ・タブレット端末の導入に対してはネガティブな考え方もあると思うが、能美市タブレット端末の導入の問題点に対する対応方法を聞くとそれぞれの問題に対して解決をされており心配する必要が少ないのではと思った。
- ・年間のペーパーレス効果が令和4年度では、約23万枚、約173万円であり、SDGsの観点からも前向きに考えることが必要だと思った。

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

- ・能美市と加東市議会では、議会運営方法が違っているようで、比較できない。
- ・能美市議会では、予算決算常任委員会の運用方法は特別委員会から踏襲しているため、「メリット・デメリットはない」という事であり、定例会ごとに予算（決算）の審査を行うため常任委員会化する方が適しているとのことである。加東市議会は、3月議会の予算案以外は即決であり、補正予算の委員会付託していくのかの議論が必要ではないか。

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員 岸本眞知子

【議会DXの取組について】

「議会改革度調査2022」（早稲田大学マニフェスト研究所）のランキングで、能美市議会は全国1,416団体（回答率79.2%）のうち、402位にランクインされている。能美市議会の先進的な取組について教示いただいた。

議会改革・議会DXの取組として、令和3年5月にタブレット端末を導入され、同年10月までは紙資料と併用、以降は完全ペーパーレス化を達成され、年間約23万枚の紙資料の削減、約173万円の経費削減を実現された。

本市もDX推進の取組に向けて試行錯誤を重ねているが、議員全員の共通認識をはかれない部分があり実現には至っていない。「議員全員がタブレット操作を駆使されているのか。」との問いに、「今も個人差はある。」と返答を頂いた時、少々安堵感を覚えた。堪能な議員と事務局でサポートされているようだが「使っていく中で操作に慣れること」「慣れ」との言葉に後押しされた。

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

能美市議会は、平成26年までは決算特別委員会のみを各常任委員会に分割付託して審査されており、平成27年3月からは予算特別委員会も審査となり、平成27年9月から予算決算委員会を常任化された。常任委員会化のメリット・デメリットは、特別委員会の時の運用方法から踏襲しているため、ないとのことである。定例会ごとに予算（決算）を行うため、常任委員会化の方が適しているとのことである。補正予算に対しても、予算決算常任委員会全体会で審査を行い、分科会を設け審査され、本会議最終日に委員長の報告を受け採決となることは、本市の即決とはまた違った慎重な審議が行えると判断する。

【その他】

思いもよらず能登半島地震が発生、視察日前日の大寒波にも見舞われ、視察先の石川県能美市にはお伺いできなかったが、オンラインでの視察を快諾していただき、DXを推進していく上で、大変意義ある視察であった。

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員 大畑 一千代

【議会DXの取組について】

タブレット端末の導入に向けた検討会の設置（令和2年6月）からタブレット導入の予算化（令和2年12月）までたった6か月間。その速さに驚く。

年度途中で補正予算を編成させ、また、執行部側へも一緒に導入させている（強制？大した調整もしていない）など、議会の力の強さを感じるが、実際はどうなのだろう。

比較的若い、ICT・DXに強い議員がリーダーシップを発揮して実現できたのだろうと思うし、議会事務局のサポートも大きかったのだろう。

加東市議会においても、若い議員にリードしてもらい、私も支援・協力ができたらと思っている。

加東市議会において導入した場合には、議案や資料の電子化（ペーパーレス）のみならず、一般質問における資料や写真などを共有すること、また、市民への情報提供に活用することも検討してはどうか。

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

オンラインのため聞き取りにくいときもあり、少々不十分に感じた。

分科会での審議における通告性、会派別に発言時間が割り当てられているとのことで制約があり、加東市議会ほどの自由な質疑にはなっていないと感じたが、もう少し詳しく聞ければよかったのだが。

予算（補正）だけではなく、条例議案なども基本的には委員会付託されているとのこと。本会議は形骸化しているのではないか。

委員会はインターネット配信もされておらず、市民への公開度、透明性の点では、加東市議会に比べ不十分と感じた。

採決を急ぐ議案については、本会議を休憩し、委員会を開催し審議し、結果を報告書にまとめ、本会議を再開し、委員長報告・・・採決している。

合理的とは思えない。

加東市議会の「本会議主義」が議会事務局の作業も少なく合理的である。

議員定数がたった16人の議会で、予算決算常任委員会はいらない。

現行の方法で何ら支障はない。

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員 別府みどり

【議会DXの取組について】

議会タブレット導入の効果で①ペーパーレス23万枚、②経費削減173万円、③時間短縮、④オンライン視察による経費削減など、非常に大きな成果をあげられている。タブレット端末の導入は議会主導で進められ、課題ではないかと思っていた、苦手意識を持つ議員への対応については、繰り返し使うことで操作にも慣れる、教えあうことで何とかなると言われていたのがとても心に残った。加東市議会でも是非ともDXを推進して行きたいと思った。使わない手はないと強くおっしゃっていたのが印象的だった。

また、ホームページの更新で見やすく、市民の方がここを見れば欲しい情報がすぐにわかる、といった工夫をされているところやYouTubeの活用で議会活動をお知らせされたりと、どんどん進化されているところも素晴らしいと思った。事務局の動画編集技術にも圧倒された。これはなかなかできないと思うが、どの分野においてもあまりハードルを上げず気負いせずに進めていくことが前進することに繋がると感じた。LINEワークスについても今後検討してみたい。

また、能美市議会の「タブレット型端末機及び文書共有システム運用基準」及び「タブレット用資料作成要領」は是非とも参考にし、加東市版の作成案をお示ししたいと思っている。

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

通告制であることや会派の点からも、加東市議会との運営方法が異なるため、常任委員会とすることの利点はあまり感じられなかったが、時間をかけてしっかり審査できる印象を受けた。常任委員会も委員会のYouTube配信をされる予定とのことで、開かれた議会への推進に力を入れられていることがよく伝わった。DXの取組と合わせて参考にしたい。

行政視察報告書(オンライン) (所感)

加東市議会副議長 長谷川 幹雄

【議会DXの取組について】

まず驚いたのが、短期間でのタブレット導入であった。

迅速に導入できた理由を3点ほど聞いたが、推進リーダー達の執念みたいなものがあったのかなと感じる。わが市の場合ではタブレット・ノートパソコンでの取組に相当の時間を要したが、現在でも全議員には導入に至っていない。議場での活用に関しては推進委員の奮闘もあり実現できてはいる。

能美市議会も課題が多くあるようで、急速な取組にはどうしても問題が出てくるが、議員間で対応しながら進めているようであるが、外部での使用ができないので次期更新時に対応するとのことであった。年間のランニングコストが若干上がることになると思う。

しかし、ペーパーレス化や時間短縮などに大いに貢献している。また、電子採決もいち早く導入されていること等を高評価する。

You Tube チャンネルにも取組んでいるようで、事務局は大変ご苦労だと感じた。

議会報告も、定例会ごとに「なるほど議会」と銘打って広報公聴特別委員会メンバーが進行役を務めネットで放送を流されている動画を見たが、今後わが市においても取組むこともできると思った。また、議会報告を意見交換の場として、委員会ごとの意見交換会を実施されていることにも感心した。

【予算決算常任委員会の運営(審査)について】

予算決算常任委員会の取組については、わが市議会とかなり違う面が多くあるが、わが市も今後は取組まなければならないものだとは思っている。結構な縛りのなかで運用されているので、戸惑いを感じたが、他市においてはこれが普通だと聞いてまたビックリした。

【その他】

人口も、議員定数も非常に似ている能美市ですが、ふるさと納税も1億円前後であるような一般質問内容を聞いたが、議会改革をすることによって、貴重な財源を有効活用するためのDXであり、ペーパーレス化や創意工夫の取組かなと感じた。